

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



さら さ ぞめ
更紗染
さな だ さだ お
真田定男

(平成14年度作品)
16ミリ映画・ビデオ
カラー・25分

プロフィール

住所、荒川区東尾久4-18-12

昭和4年(1929)、荒川区生れ。

平成13年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

真田さんの父・甚吉氏(昭和45年逝去)は、山形県上山生れ。小学校卒業後上京、東京神田下白壁町の2代目更勝こと廣瀬勝藏氏の下で、明治33年から修業につき、大正初年ころ廣瀬氏の神田の工場を引き継いだ。工場が手狭になったため、大正10年ころに建てられた廣瀬氏の尾久の分工場へ移った。

真田さんは、甚吉氏の長男で荒川区生れ。昭和22年、18歳より修業につき、型摺更紗に従事する。昭和26年に社長となる。昭和30年頃に、良質な水の出る井戸を求めて工場を埼玉県越谷市に移転した。真田さんは甚吉氏の逝去後に跡を継いだ。現在、後継者として次男の貴司氏や、真田さんの弟の文男氏などのほか6人の弟子がいる。

昭和61年に黄綬褒章を受章するなど、その技術は業界内外でも評価が高い。

用具・工具・材料

刷毛（ボタン刷毛、丸刷毛とも呼ぶ）、型紙、長板（摺板、すりいた型摺板とも呼ぶ）、敷き糊（もち米）、突き針、蒸し箱、脱水機など。
古代縮緬（こたひ ちりめん浜縮緬）、化学染料。

工程

〈図案の工程〉

- (1) 図案の形状、配色を考える。
- (2) 図案師が図案を描く。
- (3) 型紙の彫師が小刀などを使用して型紙に模様を切り込む。

〈染色の工程〉

- (1) 白生地 of 仕入れ。
- (2) 【色合わせ】
染色用染料の調合。
- (3) 【地染め】
型摺染めの前に生地の色を染める。
- (4) 【板拵え】
長板の両面に生糊を塗る。
- (5) 【地張り】
板拵えした長板に生地を張り込む。
- (6) 【型摺染め】
オッカケズリともいう。生地の上に模様を切り込んだ型紙（数十枚から数百枚）を置き、染料を摺り込む。
糸目摺り・・・輪郭を染める。4枚から6枚の型紙を使用。
目色摺り・・・目色はコイロともいう。色を染める工程。
1色あたり何枚もの型紙を使う。
地色摺り・・・ジズリともいう。模様の背景を染める。
3枚程度型紙を使う。
- (7) 【蒸し】
染め上がった反物を蒸し箱に入れ蒸す。染料を生地に定着させる。
- (8) 【水洗い】
糊や余分な染料を落とす。
- (9) 【フリキリ】
脱水機で脱水する。
- (10) 【乾燥】
生地を乾かす。
- (11) 幅を整える。



(刷毛)



(地色摺り)



(製品)

〈ビデオテープ〉 荒川区内の図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回15日間です。

（図書資料扱いのため）

〈16mm映画〉 荒川区立南千住図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回5日間です。

ただし、団体登録及び16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。なお、映写機も貸出ししています。

〈問い合わせ先〉

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

南千住図書館・・・3807-7114

町屋図書館・・・3892-9821

荒川図書館・・・3891-4349

日暮里図書館・・・3803-1645

尾久図書館・・・3800-5821

荒川区立図書館のホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>